

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

受賞 

おめでとうございます。!(^~)!

令和6年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等を受賞して

令和6年度安全就業シルバー人材センター優秀賞を受賞されました6センター(2回目◎1センター)、安全就業シルバー人材センター優良賞を受賞されました9センター、安全就業優秀連合賞1連合本部、優良連合賞1連合本部の報告をまとめ「臨時増刊号」として掲載しましたので、皆様方のシルバー人材センター及び連合本部におかれまして、ご参考にしていただき「安心・安全」のシルバー事業の発展を図ってください。

【優秀賞】

- ◎大河原町シルバー人材センター(宮城県) ○富谷市シルバー人材センター(宮城県)
- 駒ヶ根伊南シルバー人材センター(長野県) ○羽曳野市シルバー人材センター(大阪府)
- 西条市シルバー人材センター(愛媛県) ○長洲町シルバー人材センター(熊本県)

【優良賞】

- 沼田市シルバー人材センター(群馬県) ○杉戸町シルバー人材センター(埼玉県)
- 飯田広域シルバー人材センター(長野県) ○大阪市シルバー人材センター西部支部(大阪府)
- 川西市シルバー人材センター(兵庫県) ○嘉麻・桂川広域シルバー人材センター(福岡県)
- 須恵町シルバー人材センター(福岡県) ○人吉市シルバー人材センター(熊本県)
- 玉名市シルバー人材センター(熊本県)

【優秀連合賞】

- 石川県シルバー人材センター連合会

【優良連合賞】

- 青森県シルバー人材センター連合会

1 大河原町の概要

大河原町は、宮城県南部の中央に位置し、西に蔵王連峰を仰ぎ、卵型に近い楕円形をしています。町の面積は 24.99k m²と県内で3番目に小さな町で、人口は、約2万3千人となっています。

気候は比較的温暖で、雪も少なく、県都である仙台市まで電車で 35 分という地理的条件のもとに、仙台市のベッドタウンとして人口も増加してきていましたが、少子化の影響により人口は横ばい状態となっております。

江戸時代には、奥州街道の宿場町として栄え、明治時代に入り郡役所を始めとする数多くの国や県の出先機関が置かれ現在まで続いています。

また、日本さくらの会により「さくら名所 100 選」に選ばれ、毎年行われる桜まつりでは、樹齢 100 年を超えるさくらを鑑賞するため、県内外より 22 万人を超える来場者があり、町の活性化につながっております。

2 安全就業の取り組み

(1) 安全・適正就業委員会

当センターでは、会員を含めた委員6名と職員2名の計8名からなる安全・適正就業委員会を設置しています。目標である「事故0」をめざして、安全・適正就業の基準の順守や重篤事故につながる就業の見直し、事故の再発防止対策などの活動を行っております。

また、下見の段階で危険な作業になる可能性がある場合には、委員が立ち合いで確認を行います。

(2) 安全パトロールの実施

各現場まで車にて 10 分程度で到着するため、出来る限り多くの現場を確認するようにしています。除草作業、植木の剪定作業などの屋外作業を中心に、昨年度は8回のパトロールを実施しております。

パトロールでは、現場毎のチェックシートに基づいて作業現場の確認をし、現場の整理整頓や安全装具の点検、熱中症等季節に合わせた注意事項の伝達をおこなっております。

(3) 各種講習会の実施

刈払機講習会や植木の剪定講習会などを開催して、会員の知識やスキルの向上を図り、安全に就業することの大切さを考える場としても有用であると考えられます。



3 今後に向けて

センター設立以来、2 度目の受賞となります。これまで培ってきた、会員一人一人の安全就業に対する意識が結実したものと考えています。

しかしながら、昨今の異常気象による熱中症の危険性や、蜂刺され、飛び石対策など、安全に対する備えに終わりはないと思います。現状に甘んじることなく更なる対策を講じ、「事故0」に向けて邁進してまいります。

センターの概要(令和 5 年度)

- ①会員数 183 人(男性 114 人・女性 69 人)
- ②粗入会率 2.24%
- ③就業実人員 175 人(請負・委任 124 人 派遣 82 人)
- ④就業率 95.6%
- ⑤就業延人員 20,868 人(請負・委任 13,141 人 派遣 7,727 人)
- ⑥契約金額 115,482,000 円(請負・委任 61,797,000 円 派遣 53,685,000 円)

1. 富谷市の概要

富谷市は、宮城県のほぼ中央に位置し、仙台市の北側郊外のベッドタウンとして発展。平成 28 年 10 月 10 日に単独で市制施行し、宮城県下で 14 番目の市となりました。良好な住環境と豊かな自然環境が調和し、子育て世代から人気の街です。現在、人口は 5 万 2 千人を超え、ある調査の「東北・街の住みごころランキング」においては、5年連続でトップに選ばれています。

2. 安全就業の主な取り組み

(1)安全・適正就業委員会

当センターでは、理事 2 名を含めた会員 9 名と職員 1 名の計 10 名からなる安全・適正就業委員会を設置し、安全・就業推進計画に基づき毎月開催しています。また、委員会下部組織として屋外作業を担う会員 7 名からなる地区安全対策員を選任。各現場作業の朝礼等にて事故事例による注意喚起や危険予知活動(KYK)を実施しています。

(2)安全パトロールの実施

屋外作業(除草・植木剪定等)が多くなる6月から11月にかけて、安全・適正就業委員数名と事務局職員による毎月 2 回の安全パトロールを実施しています。その際に、安全啓蒙など現場への声掛けはもとより、事故事例による再発防止策の周知徹底に取り組んでいます。

(3)安全標語の募集

毎年 7 月に開催する「安全・適正就業推進大会」に合わせて、安全標語を募集しています。最優秀・優秀標語は同大会にて表彰し、1 年間センターの安全スローガンとして各種配付資料に掲載するなど啓発に取り組んでいます。

(4)各種講習会の実施

入会してすぐに受講する会員必須の基本講習会(安全就業・マナー・センターの決まり事)や除草作業安全講習会、植木剪定安全講習会等の技能講習会を開催し、会員の知識やスキルの向上、安全意識の高揚に取り組んでいます。



(5)一人就業の原則禁止化

事故発生時に迅速な対応を図るべく一人就業は原則禁止とし、事故の重大化につながるリスクの軽減に取り組んでいます。

3. 今後に向けて

この度の表彰を受け、更なる安全意識の高揚と安全就業体制の充実を図り、センター一丸となり「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。

《事務局次長兼業務係長 柏山 壽幸 記》

センターの概要 (令和 5 年度)

- ①会員数 432 人(男性 325 人、女性 107 人) ②粗入会率 2.91% ③就業率 97.3%
- ④就業実人員 426 人(請負・委任 247 人、派遣事業 179 人)
- ⑤就業延人員 42,914 人(請負・委任 21,335 人、派遣事業 21,579 人)
- ⑥契約金額 2 億 3,159 万円(請負・委任 1 億 1,780 万円、派遣事業 1 億 1,378 万円)

1. 伊南地域の概要

伊南地域は、長野県の南部、伊那谷のほぼ中央に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスの3千メートル級の山々を始め、「ふたつのアルプス」を眺望できる自然豊かな地域で、四季折々に美しい風景と立地から、登山者や観光客が多く訪れます。

当 SC は、駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村の 1 市 1 町 2 村で構成する広域 SC で、今年が設立35周年の節目の年となります。

2. 安全就業への取り組み

(1) 安全部会の開催

理事7名、会員6名、職員7名で構成する安全部会を設置し、年4回の会議を開催しています。部会では年間の活動計画に基づき、事故発生時の原因分析と再発防止に向けた対策の検討、安全パトロールの実施や安全だよりの発行、安全標語の募集により、会員の安全意識の向上を図っています。また、事故に至らないケースであっても危険と感じた事象は、ヒヤリ・ハット事例として会の中で報告し合い、その後の事故発生抑止のため共有するようにしています。

(2) 安全パトロールの実施

安全部会を中心とした班編成を行い、主として屋外作業(草刈り・草取り・剪定・果樹作業等)の現場を域内 25ヶ所程度巡回し、チェックシートにより安全への配慮、就業状況等の点検をしながら、不備等があった場合には、その場で改善指導を行っています。

(3) 各種講習会の開催

作業安全講習(脚立、刈払機、チェーンソーの使用等)を実施し、会員の知識や技術の向上、安全意識の高揚を図っています。また、技能面以外でも健康維持、認知症予防や交通安全、防災等についての講習会も機会を捉えて開催しています。

(4) その他の取り組み

作業前の安全ミーティングの完全実施と安全確認シートの活用を推進するとともに、会員自ら健康維持や身体機能把握に努めるよう、健康診断の受診や健康体操の実施を奨励しています。



3. 今後に向けて

「安全は全てに優先する」のスローガンのもと、安全就業基準の順守と日頃からの健康管理の徹底、交通事故防止に努めてきましたが、この度の受賞を励みにして、今後もより一層の安全対策に会員・役職員が一丸となって事故ゼロを目指して取り組んで参ります。

センターの概要(令和5年度)

- ① 会員数 592 人(男性 379 人 女性 213 人) ② 粗入会率 2.92%
- ③ 就業実人員 608 人(請負・委任 594 人 派遣事業 26 人) ④ 就業率 100%
- ⑤ 就業延人員 78,228 人(請負・委任 74,256 人 派遣事業 3,972 人)
- ⑥ 契約金額 4 億 383 万円(請負・委任 3 億 8,886 万円 派遣事業 1,497 万円)

1.羽曳野市の概要

羽曳野市は大阪府の南東部に位置し、生駒、信貴、金剛、葛城山系に囲まれた河内平野の中にあります。羽曳野市の南西部には、羽曳野丘陵地帯があり、なだらかな丘陵・山麓地の自然に培われた山紫水明の地で、昔から農産物の栽培に適し、夏の味覚「ぶどう」や関西地区ではもっとも多い生産量を誇る「いちじく」は、特産品として有名です。

そして、世界遺産の「百舌鳥・古市古墳群」は、大阪の南部に位置する堺市、羽曳野市、藤井寺市の3市にまたがる巨大古墳群であり、堺市の「百舌鳥」と羽曳野市・藤井寺市の「古市」の2つのエリアに分かれながらも、一体性・連続性をもっています。

また、交通の便(近鉄南大阪線、大阪外環状線)もよく、大阪市内に至る時間は、30分程度です。

2.安全就業の取り組み

(1)安全委員会

当センターでは、理事2名を含めた会員7名からなる安全委員会を設置し、年3回開催しています。そこでは当センターで起きた傷害・賠償事故を報告し、その内容と原因を話し合い、事故の再発防止対策を検討しています。また、全就業会員に対し市の特定健康診査か後期高齢者健康診査の受診を強く勧め、受診結果の提出を呼びかけて日頃の体調管理の自覚を促しています。加えて毎年安全標語を募集し、そのうち12句を毎月の事務局だよりに掲載し安全意識を高めています。

(2)各種講習会の実施

植木・除草作業安全講習を定期的実施しております。愛知県シルバー人材センター連合会が作成された安全就業のDVD「仕事の原点」を使用し、ヘルメット着用の義務付けや安全意識の向上を図っています。特に、草刈り作業における傷害事故や物損事故防止のためにナイロンコードの草刈り機は禁止しています。また、人権・ハラスメント研修などを開催し、心の健康にも配慮しております。



3.今後の取り組みについて

この度の表彰を受け、安全就業の徹底を図るために各研修会のさらなる充実に努めます。また、全就業会員に市の特定健康診査か後期高齢者健康診査の結果の提出を引き続き呼びかけをしていきたいと考えています。

センターの概要(令和5年度)

- ① 会員数 876人(男性584人 女性292人) ② 粗入会率 2.2%
- ③ 就業実人員 871人(請負718人 派遣153人) ④ 就業率 99.4%
- ⑤ 就業延人員 107,760人(請負81,761人 派遣20,999人)
- ⑥ 契約金額 4億9,905万円(請負3億7,041万円 派遣1億2,864万円)

1. 西条市の概要

西条市は、人口10万3,972人(令和6年3月末現在)、面積510.04km²で、愛媛県の東部に位置し、南は西日本最高峰の「石鎚山」、北は瀬戸内海に囲まれた温暖な気候です。

全国的にもまれな被圧地下水の自噴地帯が広範囲にわたって形成され、一帯では15～20メートルの鉄パイプを打ち込むだけで、良質かつ豊富な地下水が自然に湧き出てきます。その自噴水は「うちぬき」と呼ばれ、飲料水としての利用はもちろん、数々の利水産業の興隆を促してきたことが「水の都」と呼ばれるゆえんです。

また、本年11月1日に合併20周年という記念すべき節目を迎えます。

2. 安全就業の取り組み

○安全パトロール

安全・適正就業委員会委員を中心に月1回安全パトロールを実施。作業別巡回指導記録に基づき就業時の安全保護具の着用確認や器具の点検、熱中症対策等指導をしています。

○安全講習会の開催

全会員対象に交通安全講習会や、事故を発生させた会員を対象とした安全講習会を実施し、事故防止対策の徹底を図っています。

○事故防止の対応

各職群班による作業前ミーティングを必ず行い、仕事の手順と危険箇所を確認、安全に対する意識づけの徹底を図っています。事故発生時には、班長から班員に報告、注意喚起を行います。また、班長会を定期的で開催し、安全就業に対する指導を行っています。



○安全就業の周知・啓発

定期的に安全ニュースを配布し、就業時の事故防止や交通事故対策だけでなく、熱中症防止など時期に応じた体調管理に努めるよう注意喚起を行っています。

会員の健康管理のため、明細書送付の際に市が実施する無料健康診断の情報提供を行い、受診を奨励しています。

○今後に向けて

安全対策に終わりはなく、これからも更なる安全就業の徹底を図り、あらゆる事故防止に努めなければならない。会員・職員一丸となって「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。

シルバー人材センター概要(令和5年度)

- ① 会員数 790名(男性504名、女性286名)②粗入会率 1.9%
- ③ 就業実人員 644人(請負・委任374人、派遣事業343人)
- ④ 就業率 81.5%
- ⑤ 就業延人員 80,374人(請負・委任46,460人、派遣事業33,914人)
- ⑥ 契約金額 366,841,908円(請負・委任175,810,106円、派遣事業191,031,802円)

1. 長洲町の概要

長洲町は熊本県の北西部に位置し、有明海に面し対岸には雲仙を望みます。JR 鹿児島本線が通り、長洲港と長崎県雲仙市の多比良港とを結ぶ有明フェリーが運航しています。金魚の産地として全国に知られています。また、有明海での海苔養殖や、東部の丘陵地でみかんや梨の果樹栽培が行なわれています。さらに造船やサッシ工場といった多くの企業も進出。人口 15,000 人余の、温暖な気候のもとで、豊かな自然と、工業地帯が共存する町として発展しています。

2. 安全就労の取り組み

○理事 2 名、会員 5 名と職員 3 名の安全委員会を設置し、安全対策や事故発生時の原因究明などを話し合い、現場にフィードバックしています。会議の内容は記録を作成し、今後の指針としています。

○安全パトロールは、作業現場での服装、保護具、作業内容などの確認と、問題点の指摘・指導を行っています。飛び石によるガラス破損事故が年に何度か発生していますので、飛び石に対しては特に注意喚起を行っています。年 4 回実施していましたが、コロナ禍で年 3 回に減りました。令和 6 年度から年 4 回に戻す予定です。



○講習会への参加は、刈払機の取り扱い方、植木剪定時の三脚やチェーンソーの使い方など、会員と職員で参加して、安全で効率的な使用方法を学んでいます。

講習会の実施は、かつては交通安全講習など行っていましたが、コロナ禍の間は中止となっていました。また実施したいと検討しています。

3 今後の取り組み

安全対策にこれで大丈夫ということはありません。作業時は常に周囲に気を配り、安全な作業を心がけます。またコロナ禍で滞っていた安全パトロールの回数や講習会の実施も復活させて、これまで以上に安全就業のために努力したいと思います。

センターの概要(令和 5 年度)

①会員数 168 名(男性 121 名、女性 47 名)、②粗入会率 2.56%、③就業実人員 145 名(請負・委任 116 名、派遣 29 名)、④就業率 86.3%、⑤就業延人員 13,630 名(請負・委任 10,239 名、派遣 3,391 名)、⑥契約金額 79,123,526 円(請負・委任金額 54,256,399 円、派遣金額 24,867,127 円)

1、 沼田市の概要

沼田市は、群馬県の北部に位置し、赤城山や武尊山など日本百名山に挙げられる山々に四方を囲まれ、恵まれた自然と豊富な温泉群・スキー場・史跡・果樹園、そして関越自動車道による交通アクセスの良さなどを背景に、本市は有数の観光地となっております。

2、 安全就業への取り組み

(1) 当センターでは、理事5名、安全就業委員6名の計11名からなる安全就業委員会を設置し実施計画の決定や前年度の事故発生状況などから、事故を分析し今後の事故防止対策立案、目標設定を行い事故の再発防止に努めております。

(2) 安全への取り組みとして、事務局職員や役員が頻繁に就業現場の巡視・確認を行っており、そこで発見された不安全内容を事務局職員から会員に安全指導と安全啓発を図っております。

又、事務局が就業先まで会員を送迎しているケースが多く、その際に就業現場を毎日職員と会員が確認し、不安全要因が認められる場合には、事前にその要因を取り除き、作業を開始する等、様々な安全対策をとっております。さらに草刈り作業や剪定作業に関しては「安全マニュアル」を作成し、従事会員に手渡しにて配布、説明し安全意識の高揚を図り、更に刈払機などの使用器具や刈刃・ヘルメット・安全保護具等についてもセンター事務局で管理し、不良品を使用することを要因とした傷害事故が発生しないよう事故防止にも取り組んでおります。



(3) 職員への安全就業への意識付けも大事な事であり、定期的に職員を一同に集め、情報共有や安全への意識を常にしっかり持つ事の重要性を確認し、その事を現場や来所する会員に会うたびに声かけをして、会員が安全への意識を常に持っていただけるように、取り組んでいます。

(4) 今後も、更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指し取り組んでまいります。

《 事務局長 野村 忍 記 》

センターの概要(令和5年度)

- ① 会員数 468 人(男性 250 人、女性 218 人)② 粗入会率 2.5%③ 就業率 78.2%
- ④ 就業実人員 366 人(請負・委任 346 人、派遣事業 34 人)
- ⑤ 就業延人員 46,565 人(請負・委任 43,631 人、派遣事業 2,934 人)
- ⑥ 契約金額2億 1,598 万円(請負・委任1億 9,725 万円、派遣事業 1,870 万円)

1 杉戸町の概況

杉戸町は、埼玉県北東部にあり都心から40km圏に位置します。人口は、約4万4千人の60歳以上の高齢化率39.9%（4月1日現在）です。地形は鷺が羽ばたいた形をしていて、古くは江戸時代に、日光街道5番目の宿場町を形成し、今もその面影が残っているのも、特徴のひとつです。駅前を少し離れると、一面の平地に田園が広がっています。農業が盛んな地域で、その特性を活かした道の駅「アグリパークゆめすぎと」が人気を博しています。

2 安全管理委員会

構成メンバーは、理事3名・会員4名・職員1名の計8名です。年10回の委員会開催と、同日に続けて安全パトロールも実施するようにしています。センター入口玄関に、事故発生件数（類型別）を貼り「事故ゼロ」のスローガンを掲げています。例年最初の事故は、草刈機による飛び石事故が殆どです。この事故の比率が高いことから重点的に対策をしています。

3 草刈機の事故防止

以前、最初に感じたことが同一の作業会員が事故を、起こす可能性が高く、当事者意識も低かったということです。

そのため、ペナルティ制度（平成27年4月）を設け警告書を発行するようにしています。併せて、詳しく聴き取りを行っています。刈払機は、会員個人での所有ですが、メンテナンスの問題（整備不良）もあり、責任を持ち点検・メンテナンスをしていただくよう、草刈講習会開催の際には、機械の仕組みや構造から説明しています。よく理解し安全に使用できるよう心掛けています。

また、明確な草刈作業の基準が無かったため、作業別安全・適正就業指針（平成31年4月）も設け、安全衛生教育の免許や、自走式・乗用タイプの機械は、センター独自の講習（自前免許制）の受講を必須としています。



最後に、センターで一括し草刈刃（推奨）を、用意していますが、なかなか飛び石による事故が、無くならないのが現状です。

4 今後の予定

コロナ禍では、屋内での講習会を中断していましたが、令和5年度には、作業に関する技能分野以外にAEDや交通安全講習会を行いました。今後は、就業に欠かせない健康維持に関連する方策を、考え実施していく予定です。

センターの概要（令和5年度）

- ① 会員数 279人（男性 212人、女性 67人）
- ② 粗入会率 1.6%
- ③ 就業率 87.5%
- ④ 就業実人員 244人（請負・委任 234人、派遣事業 13人）
- ⑤ 就業延人数 27,261人（請負・委任 25,926人、派遣事業 1,335人）
- ⑥ 契約金額 1億5,986万円（請負・委任 1億5,052万円、派遣事業 933万円）

1. 飯田広域の概要

長野県の最南端に位置し、東西にアルプスがそびえ、南北には天竜川が貫く谷地形が広がり、豊かな自然に恵まれている当地域は、飯田市をはじめ1市2町2村の広域に携わり活動しています。古くは養蚕や水引工芸など伝統産業により発展してきましたが、現在は先端技術を導入した精密機械や、特産の市田柿・梨・りんごなど果実を中心に農業が盛んに行われています。近年は着工が進むリニア中央新幹線の長野駅として、飯田市の新しい街づくりに取り組んでいます。

2. 安全就業への取り組み

(1) 安全推進委員会の設置

理事6名、事務局2名の計8名で構成し、「事故ゼロ」を目指して年間3～4回の開催。委員会では、「安全就業基準」の見直し、作業事故状況の検証と対策、刈払い機など使用機器の安全講習会開催などの協議を行います。

(2) 安全パトロールの実施

毎年専務理事同行にて安全推進委員全員にて、定期的にパトロールを実施。また担当職員による無通告パトロールも実施し、特に危険が高い除草作業、剪定作業現場を主に、服装保護具の着用・使用機器の適正な使用・防護ネットの設置など安全対策の確認と指導を行っている。

(3) 就業前ミーティングの完全実施

就業前ミーティングによる危険予知は、あらゆる事故防止につながると考えている。就業範囲からの危険箇所、服装・使用機材の適正および当日の健康状況などグループ皆で情報を共有し、事故の抑制を図っています。会員は就業前に就業報告書の裏面を活用した「安全確認シート」にて確認が必須で、特に除草作業は更に詳細な項目を設定し、より安全への取り組みを高めている。

(4) 安全管理に関する講習会の開催

刈払い機およびチェーンソーの各種使用機材の安全技術講習会を、安全就業コンサルタントの外部講師を招き、毎年実施している。講習会は半日座学を行い、午後には実際に機材を使用し、安全への配慮・正しい作業姿勢などを習得。就業会員は刈払い機による飛び石事故・チェーンソーによる伐倒事故など危険が高いく受講を必修としている。



〈刈払い機安全技術講習会〉カルマーを使用いて実技

(5) 安全就業は健康管理から

安全推進委員会の下部組織として、安全衛生委員会を産業医1名・理事4名・会員代表3名・衛生管理者1名・事務局1名の計10名で設置している。安全に就業を行うには、会員が健康な状態で就業することが大切であり、健康に無理をきたした状態では思わぬ大事故へとつながりかねません。委員会は毎月開催し、健康をテーマに産業医から講話を聞き健康への助言をお聞きしている。また年1回全会員を対象に産業医による健康講話を開催し、身近なテーマを演題に講演会を行っている。

《安全推進委員事務局 寺沢雅治 記》

センターの概要(令和5年度)

- ① 会員数 839 人(男性 593 人・女性 246 人)
- ② 粗入会率 1.56%
- ③ 就業実人員 687 人(請負 481 人・派遣 206 人)
- ④ 就業率 81.9%
- ⑤ 就業延べ人員 82,242 人(請負 60,754 人・派遣 21,488 人)
- ⑥ 契約金額 43,004 万円(請負 32,493 万円・派遣 10,511 万円)

1.大阪市の概要

大阪府は1889年に市制が施行され、現在は人口約276.8万人、広さ約225.33平方キロメートル。市域は24の行政区からなり、市庁所在地は北区中之島（淀屋橋）。市域に多数の河川や堀を有し、歴史的にも港湾機能や河川交通が発達していたことから「水都」の異名を持っています。西日本および近畿地方の首位都市であり、経済・文化・交通の中心都市となっています。

2.安全就業の取り組み

(1) 安全委員会

当センターでは、理事3名、委員8名、職員5名の計16名からなる安全委員会を設置しています。傷害事故、賠償事故、派遣労働災害事故報告を分析し、安全意識向上のため年2回発行する会報（8月・1月）に安全委員会だよりとして状況報告をしています。

(2) 安全パトロールの実施

毎月4支部（本部、南部支部、西部支部、北部支部）で各2名の安全委員による「安全パトロール」を実施しています。現場で就業会員から日頃の作業内容について聞き取りをし、高所作業などの危険な作業をしていないか、自転車保険に加入しているか等確認し安全に関する啓発を行っています。

(3) 公益社団法人大阪府シルバー人材センター協議会が主催する会議への参加

毎年7月に行われる「安全就業大会」および2月に行われる「安全・適正就業推進員会議」に参加し9月と3月に実施する「安全委員会」において情報を共有し安全に対する意識を高めています。

(4) 安全研修会（交通安全・生活安全・健康管理）の実施

2023年度までは年4回開催していた「安全研修会」を2024年度から年5回実施しています。大阪府警の協力を得て安全な自転車の乗り方等の交通安全に関する事や特殊詐欺被害やひったくりにあわないための、生活安全に関する啓発を行っています。また、大阪市福祉局及び健康局の協力を得てフレイルや口腔ケア・栄養等のテーマで健康管理に関する啓発を行っています。

3.今後の取り組み

この度いただいた安全就業優良賞を励みとして、今後一層安全就業に関し安全パトロールや安全研修会を通じて会員一人一人に、弊社のスローガンである「元気に出かけて笑顔で帰ろう、いつも心に安全意識」が定着するように取り組んでいきたいと思っております。

センター概要（令和5年度）

- ①会員数 7,795人（男性 4,842人、女性 2,953人）
- ②粗入会率 0.94%
- ③就業率 70.1%
- ④就業実人員 5,468人（請負・委任 4,319人、派遣事業 1,149人）
- ⑤就業延人員 615,720人（請負・委任 476,318人、派遣事業 139,402人）
- ⑥契約金額 25億8,433万円（請負・委任 18億9,878万円、派遣事業 6億8,555万円）

1.川西市の概要

川西市は兵庫県の東南部に位置し、人口は約 15.4 万人です。市は豊かな自然環境に恵まれる一方、大阪・神戸に近いこともありベッドタウンとして栄え、市の特色として第 56 代清和天皇のひ孫「源満仲」が、武家社会と清和源氏の礎を築いたことから「清和源氏発祥の地」、また明治 17 年に「平野水」の販売がはじまり、後に「三ツ矢サイダー」のもととなったことから「三ツ矢サイダー発祥の地」、そして「にほんの里 100 選」に選ばれた黒川地区の里山は日本一の里山とされています。

2.安全就業の取り組み

(1)安全委員会を設置し、年 3 回開催している。委員会の「形骸化」を防ぐため、安全就業に対する具体的な対策と、全会員に対して効果的な安全啓発を行っていきけるような議論を委員会で行い、実行していくことを主眼にしています。

(2)安全委員会委員によるパトロールを毎年 7 月に 1 回、また、安全就業推進員によるパトロールを植木剪定等の作業現場に出向き、令和 5 年度は 94 ヲ所訪問し安全啓発を行いました。

(3)技能向上と安全就業の徹底を図るため、状況に応じて各種講習会を開催しています。

特に刈払機を使い機械刈除草作業に従事する会員に対しては、必ず刈払機取扱講習で安全対策も含めた技能講習を受けてもらい、また飛び石などの少ない刈刃を使用することを推奨しています。(令和 4 年度、5 年度は機械刈除草班による飛び石事故は 0 件でした)



3.今後に向けて

この度の表彰を受け、改めて身の引き締まる思いでした。今後も「センター全体を守っていく」この取り組みを辛抱強く続け、事故減少に繋げていきたいと考えております。

《事務局次長 福井 保弘 記》

センターの概要(令和 5 年度)

- ①会員数 1,221 人(男性 793 人、女性 428 人) ②粗入会率 2.1% ③就業率 74.9%
- ④就業実人員 914 人(請負・委任 780 人、派遣事業 176 人)
- ⑤就業延人員 86,809 人(請負・委任 66,564 人、派遣事業 20,245 人)
- ⑥契約金額 4 億 2,640 万円(請負・委任 3 億 1,839 万円、派遣事業 1 億 801 万円)

1 嘉麻市・桂川町の概要

嘉麻市、桂川町は福岡県のほぼ中央に位置し、広域人口は約 48,000 人です。

嘉麻市には沖出古墳、桂川町には王塚古墳が有り又豊かな自然に囲まれた地区です。

2. 安全就業への取組み

(1)安全・適正就業推進委員会の設置

理事 1 名、会員 2 名、事務局 1 名の計 4 名で構成。年 3 回安全・適正就業委員会を開催安全に就業するためのルール制定、実施計画や事故の原因分析と防止対策、作業内容の検証・見直しをしています。

(2)事故防止用具の推奨

除草作業において、特に飛び石による賠償事故が発生していることから、機械の特性や取扱を理解していただくために刈払講習会の実施やナイロンコード刈りの禁止徹底、飛び石ネットの原則設置とともに、危険個所の見直しも含め、安全対策の徹底に努めています。



(3)安全推進スローガンの募集

毎年、安全意識を高めるため、全会員を対象に募集を行い、優秀作品の選定、事務局だよりへの掲載など会員の意識啓発に取り組んでいます。

(4)安全パトロールの実施

事故ゼロを目指し、安全・適正就業推進委員会のメンバーで作業現場を、年 15 回ほどパトロールしています。特に屋外作業の現場でヘルメットの正しい着用、用具の確認を行っています。

センターの概要(令和 5 年度)

- ① 会員数347名(男性235人、女性112人)② 粗入会率 1.2%③ 就業率82.1%
- ④ 就業実人員 289 人(請負・委任 283 人、派遣事業 6 人)
- ⑤ 就業延人員 28,531 人(請負・委任 28,265 人、派遣事業 266 人)
- ⑥ 契約金額 2 億 2,966 万円(請負・委任 2 億 2,825 万円、派遣事業 142 万円)

1. 須恵町の概要

須恵町は、福岡県の中央部よりやや北西寄り、福岡市の東約 10 キロメートルに位置しています。町域は東西 7.1 キロメートル、南北 4.0 キロメートル、総面積 16.31 平方キロメートルを有しており、東部及び北部は山地で太宰府県立自然公園指定地区に指定されている若杉山、岳城山がみられるなど自然に恵まれた環境にあります。近年では町の北西部から南西部にかけて、福岡市のベッドタウンとしての開発が進んでいます。九州自動車道が町内を縦断するように整備されています。町内には須恵スマートインターチェンジが上下線ともに設置されています。地域の暮らしに欠かすことのできない重要施設として定着しています。

2. 安全就業の取り組み

①安全就業委員会の構成(理事 1 名、会員 3 名、職員 1 名)

- ・屋外作業班や屋内作業班から選出している。

②安全就業委員会を隔月開催し、安全パトロールを行っている。

- ・1回に5カ所程度、抜き打ちで巡回している。

③職群班班長会議を隔月開催し、安全確認を行っている。

・各職群班の報告を受け、安全確認が必要な班には、指導を行っている。

④安全パトロールにおける指摘事項は、職群班班長会議

及び事務局だよりで周知し喚起を促した。

- ・安全就業委員会による安全パトロールの結果は、職群班班長会議において共通認識とし、重ねて毎月発行する「事務局だより」で全会員に周知している。

⑤事故等が発生したら、安全就業委員会で再発防止を検討し、理事会に報告している。

⑥安全標語の募集を行い、安全就業への意識を喚起している。

⑦安全就業促進大会の開催

- ・年に一度開催し、安全の意識を高めている。



センター概要(令和 5 年度)

- ① 会員数 188名(男性 94名 女性94名)
- ② 粗入会率 2.1%
- ③ 就業実人員 168名
- ④ 就業率 89.4%
- ⑤ 就業延人員 17,916人
- ⑥ 契約金額 (請負金額6,428万円 派遣金額394万円)

1. 人吉市の概要

熊本県の南部人吉盆地の西南端に位置し、宮崎、鹿児島両県と接しています。

面積の7割以上の山間地と、日本三大急流の一つである球磨川が織りなす豊かな水系が独特な風土を育み、温暖多雨な気候でありながら、昼夜の気候格差が大きいことや、零度以下の冬日、霧の発生などが特徴で、「九州の小京都」と呼ばれる山紫水明の街です。

また、令和2年7月豪雨災害にて、球磨川が氾濫し多くの財産を失いましたが、現在復興に向けあたらしい街づくりに挑戦しているところです。

2. 安全就業の取り組み

(1) 安全管理運営委員会

当センターでは、安全意識の向上を図るために安全管理運営委員会を設置し、委員は理事1名(役職:副理事長及び職群班長)、職群班長7名、就業開拓員1名、職群班会員1名を含めた会員で構成しています。他の委員会に重複しない職群班長には安全管理運営委員を委嘱し、職群班内で会員への安全にも努めて頂いています。委員会では事故の発生状況及び安全対策の協議、安全だよりの発行、そして早朝安全大会の開催も行っています。

(2) 早朝安全大会

毎月の月初め就業開始前の早朝に、主に屋外作業会員、安全管理運営委員、副理事長、事務局長及び職員による、早朝安全大会を開催しています。当センターの事故の周知や季節にかかわる注意事項の連絡等、また毎月発行の「安全就業ニュース」(全国シルバー人材センター事業協会)そして「事故発生状況」(熊本県シルバー人材センター連合会)を活用し、類似の作業における注意喚起を行っています。

(3) 就業現場巡回(就業開拓員兼安全管理運営委員)

作業時の安全確認を含め日々巡回しています。
(安全確認巡回令和5年度実績 年125日 295件) 発注者との打ち合わせから、職群班及び会員への作業内容等の引き継ぎ、見積積算そして安全な作業方法を含め従事して頂いています。



(4) 今後に向けて

この度の表彰を受け、会員に感謝するとともに、優秀賞を目指して、事故が無く就業に取り組んでいくためできることを行って行きたいと思えます。

- ・熱中症予防と熱中症警戒アラート時期の対応
- ・会員高齢化の対応(特に屋外作業における除草及び植木剪定会員の減少及び高齢化)

センターの概要(令和5年度)

- ①会員数 303人(男性160人、女性143人)
- ②粗入会率 2.22%
- ③就業率 69.6%
- ④就業実人員 230人(請負・委任 211人、派遣事業 31人)
- ⑤就業延人員 25,416人(請負・委任 21,626人、派遣事業 3,790人)
- ⑥契約金額 13,145万円(請負・委任 11,513万円、派遣事業 1,632万円)

1. 玉名市の概要

玉名市は、平成17年10月に玉名市・岱明町・横島町・天水町の1市3町が合併して誕生しました。玉名市は熊本県の北部に位置し、有明海、菊池川、小岱山及び金峰山の山々などの豊かな自然に恵まれ、産業面では、米をはじめとするイチゴ、トマト、柑橘類の農産物や海苔などの水産物の生産が盛んである。また市の中心部には1,300年の歴史を誇る玉名温泉があり、一方、市の南部には有明海を望むみかんの丘にある小天温泉は、夏目漱石の名作「草枕」の舞台としても知られています。

2. 安全就業への取り組み

(1) 安全委員会の開催

安全委員4名、職員で構成され、年間の行事計画(講習会等)や発生した事故の原因究明及び安全対策についての会議を開催しています。

(2) 安全巡回パトロール

安全巡回パトロールとして、抜き打ちで年4回実施しています。剪定、除草、草刈り、清掃等の屋外作業現場を中心に安全委員及び職員で巡回し、安全就業のチェックを行っています。

また、巡回の際には事故事例を挙げての情報共有や、熱中症対策についての注意喚起を行い安全意識の高揚を図っています。

(3) 講習会の開催

技能の向上及び安全就業の徹底を図るため、草刈り・剪定、救急救命の各講習会を年1~2回実施しています。



3. 今後に向けて

「安全はすべてに優先する」の理念のもとに安全就業を徹底し、安全就業は個々の会員だけではなく組織全体の課題としての認識を持つよう会員の安全に対する意識の高揚に努め、「事故ゼロ」を目標に取り組んでまいります。

《事務局長 森川隆秀 記》

【令和5年度の実績】

- ① 会員数 416人 (男性:312人 女性:104人)
- ② 粗入会率 1.6%
- ③ 就業実人員 請負・委任 314人 派遣83人
- ④ 就業率 請負・委任 75.4% 派遣 75.0%
- ⑤ 就業延人員 42,292人日 (請負・委任:35,344人日 派遣:6,948人日)
- ⑥ 契約金額 2億4,761万円 (請負・委任:2億6,74万円、派遣事業4,087万円)

1 石川県の概要

本年1月1日に発生した能登半島地震は、県内全域、特に能登地域に甚大な被害をもたらしました。能登地域のセンターでは、会員の死亡・負傷・避難・転出、発注先の事業の停止・休止、インフラの損傷などにより重大な影響を受けましたが、全シ協、県内外の連合会・センターをはじめとする多くの支援の声に励まされ、復旧・復興に向け取り組んでいます。

2 安全就業の主な取組について

(1) 組織、会議等

安全・適正就業推進専門委員会、安全対策協議会及び衛生委員会の3組織を設置しており、センターの理事長、事務局長、職員等がメンバーとして参加し、活動しています。

(2) 安全意識の向上、安全対策の推進等のための取組

①毎年7月に安全・適正就業推進大会を開催しています。大会では、令和4年度から、連合会独自の安全表彰「優良安全就業シルバー人材センター表彰」を実施しており、会員の事故防止に積極的に取り組み、事故発生抑止の成果が顕著な2つのセンターを毎年表彰しています。受賞のセンターには、安全就業に関する物品の購入等に充てる安全対策費10万円を助成することとしています。

②安全ニュースの発行(年4回) A4両面カラー版を作成し、全会員に向けて、全センター経由又は郵送で配布しています。

③安全情報の提供 全センターから毎月提出される事故報告をまとめ、事故内容を分析し、コメントを付けて、全センターへフィードバックしています。



(3) センターとの安全パトロール等の実施

主に、重篤な事故と飛び石による賠償事故を防ぐことを目的に、連合会の安全・適正就業推進専門委員会が、7月に県内2つのセンターにおいて合同安全パトロールを実施し、剪定や草刈現場をパトロールしているほか、連合会の安全担当職員が、センターが実施する安全パトロールに、通年でオブザーバー参加しています。また、連合会の衛生管理者が、センターの衛生管理者や担当者とともに派遣先の職場巡視を実施しています。休業4日以上の方災が発生した場合は、事故発生後、速やかに現場での確認・検証をするようにしています。

(4) 安全衛生活動

①自動車運転業務に従事している会員に対する実地運転技能講習の実施、健康診査結果に基づく連合会の産業医による運転可否の評価及び認知障害早期発見のセルフチェックを実施しています。

②センター職員の「衛生管理者資格」取得等に対する支援(試験手数料の全額援助)

(5) 全シ協作成動画の活用

昨年度、全シ協が作成した「安全な草刈のために」のDVDを連合会でお借りし、センターに貸し出しています。センターでは、機械刈り就業会員の研修に大いに役立てています。

なお、転落等による重篤な事故を防ぐため「安全な剪定作業のために」の動画もぜひ作成してほしいとの要望がセンターから寄せられています。

(6) 今後の取組

転落、転倒事故による重篤事故を防ぐため、引き続き、ヘルメットをはじめとする防護具の着用、使用を徹底していくことにしています。

また、飛び石事故対策が急務であり、飛び石防護ネットやハサミ型刈刃の普及など、各センターの取組を積極的に支援し、結果につなげていくことにしています。

石川県シルバー人材センター連合会の概要(令和5年度)

- ① センター数 18 団体(すべて国庫補助団体)
- ② 会員数 9,015 人(男性 5,596 人 女性 3,415 人) ③ 粗入会率 2.3% ④ 就業率 81.5%
- ⑤ 就業実人員 7,343 人(請負・委任 6,009 人 派遣事業 2,072 人)
- ⑥ 就業延人員 781,853 人(請負・委任 566,409 人 派遣事業 215,444 人)

1 青森県の概要

本州最北端に位置する青森県は、日本一の桜を自負する弘前公園や風光明媚な十和田奥入瀬溪流、雄大な樹氷群とスキーのメッカ八甲田山など四季折々の景観を楽しめる土地柄です。

また、毎年8月には、青森ねぶた祭や八戸三社大祭など県内一円でお祭りが開催され、人々が熱気に包まれ、笑顔と活気が一年で最高潮を迎えます。

シルバー事業においては、会員の高齢化が顕著となっており、受託件数のうち草刈作業が大半を占めているのが実状ですが、近年ではホワイトカラー系の職種として、AIアノテーション(AI開発における教師データの作成)業務の受注の他、放課後児童クラブの補助スタッフや介護施設における切出し業務の開拓等により、多様化する会員の就業ニーズに対応するべく就業機会の提供に努めています。

2 安全就業の主な取り組み

(1) 安全就業推進研修会の開催

蜂刺されや草刈り時の飛散事故「ゼロ」を目指し、連合会の職員及び安全・適正就業対策推進委員が各センターを訪問。会員を対象に事故防止に関する座学のほか、両刃回転式刈払機のデモンストレーションやおにやんまブローチの作成など、体験型の研修を実施しました。



(2) 安全・適正就業対策推進委員会の開催

県内の事故発生状況の報告、安全・適正就業推進研修会の振り返り、安全・適正就業対策推進事業計画の設定や意見交換などを行っています。



(3) 安全就業通信の発信

短期間に事故が多発した際、全センターに「安全就業通信」を発信。情報共有を図り、類似事故の防止を啓発しています。

3 安全就業対策における課題

事前の現場下見や、防護ネットの配置といった、事故を事前に防ぐための予防的な対策が後手に回っているのが実状です。

4 今後の取組の考え方

作業前の現場確認を徹底すると共に、「蜂刺され・熱中症予防と転落防止」、「草刈現場の養生(防護ネットの使用)と飛散低減刈刃または両刃回転式刈払機の使用徹底」を今年度の安全目標として設定。研修やパトロールを通じて、センター会員の安全意識向上を図ります。

青森県シルバー人材センター連合会の概要(令和5年度)

- ① センター数 24団体(国庫補助対象団体13団体・国庫補助対象外団体11団体)
- ② 会員数 6,334人(男性3,943人・女性2,391人)
- ③ 粗入会率 1.4%
- ④ 就業率 86.2%
- ⑤ 就業実人員 5,463人(請負・委任5,060人・派遣1,319人)
- ⑥ 就業延人員 552,295人日(請負・委任428,992人日、派遣123,303人日)